



Empowered by Innovation

NEC

資料 5

実証実験内容について

平成24年4月23日

日本電気株式会社

目次

1. 実証実験の考え方
2. 実証実験の進め方
3. 実証実験①
4. 実証実験②
5. 概算スケジュール

1 実証実験の考え方

目的

東日本大震災で得られた教訓をもとに、発災後の段階に応じた業務継続のあり方・情報提供の実施方法を検討するとともに、有効性あるICTの活用方法について、複数自治体による実証実験を通して検証すること。

基本的考え方

- ▶ 今回の震災において特徴的かつ多くの被災団体で生じた事象を教訓とする
- ▶ ICTが利用できない場合も想定し、訓練も含めた実証とする
- ▶ 一部の先進団体のみではなく全国の団体にとって参考となる実証とする

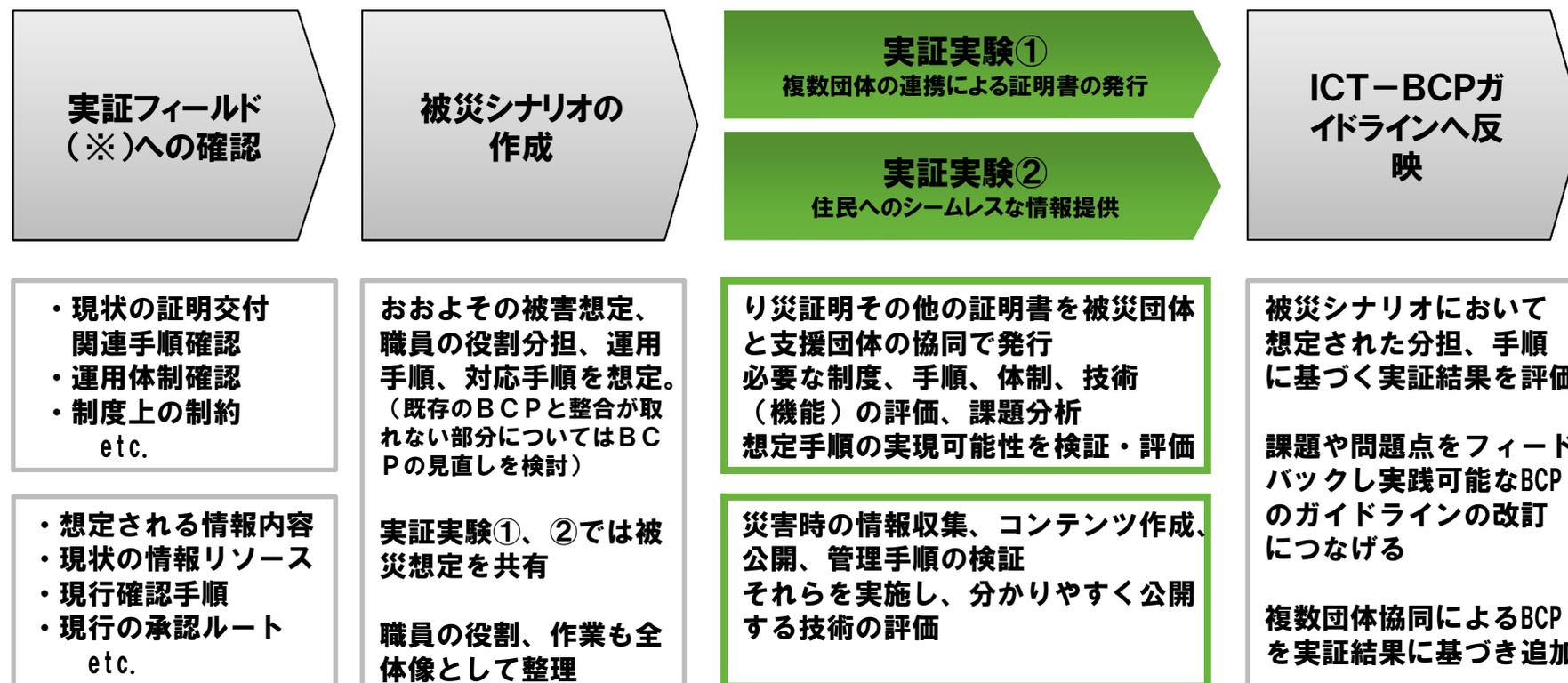
汎用性・実効性のある
ICT-BCPガイドラインへ

東日本大震災の教訓と実証内容

東日本大震災の事象	主な検証ポイント	実証実験の内容
行政自らの被災、 行政機能の移転	<ul style="list-style-type: none">● 団体間連携● 業務標準化	<ul style="list-style-type: none">● 複数団体の連携によるり災証明等の発行(実証実験①)<ul style="list-style-type: none">✓ A市が被災したとの想定で、B町の住民窓口にてA市民のり災証明等を発行✓ 汎用的なバックアップフォーマットとして「中間標準レイアウト」の利用可能性の検証✓ 業務支援システムの有効性の検証
住民データの喪失	<ul style="list-style-type: none">● 遠隔バックアップ● クラウド利用	
電源、通信 インフラの喪失	<ul style="list-style-type: none">● 住民への情報提供手段	<ul style="list-style-type: none">● 住民へのシームレスな情報提供(実証実験②)<ul style="list-style-type: none">✓ 被災によりA市HPがダウンしたとの想定✓ 代替手段(クラウドサービス等)による災害時情報発信サイトの運用✓ コンテンツ作成、発信に至る一連の手順の評価✓ 住民による災害時情報発信サイトへのアクセスが困難な状況を想定した机上検討

2 実証実験の進め方

被災シナリオを策定し、発災後の段階に応じた業務継続のあり方・情報提供の実施方法を検討し実証実験を行う。その評価結果をICT-BCPガイドラインに反映する。

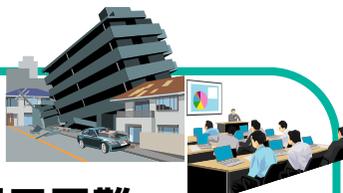


(※) 実証フィールド	
A市	人口40万人規模
B町	人口5万人規模
C町	人口1万人規模

3 実証実験① 複数団体による証明書の発行 (1/3)

甚大災害に備え、他団体の支援を得ながら業務継続

被災団体



- ・甚大災害の発生
- ・庁舎、業務システムとも利用困難
- ・多くの職員は現地対策、**情報収集、発信**などを担う
- ・住民は順次近隣自治体などへ避難
- ・最低限必要な**証明発行のためのセンタ**設置

住民は近隣自治体などへ避難

支援団体



- ・避難してきた住民の受け入れ
- ・各種支援対応に職員を派遣
- ・協定に基づき**避難民の本人確認などの事務を分担**
- ・被災団体職員の協同で最低限必要な**証明書などの発行を実施**

実証フィールド

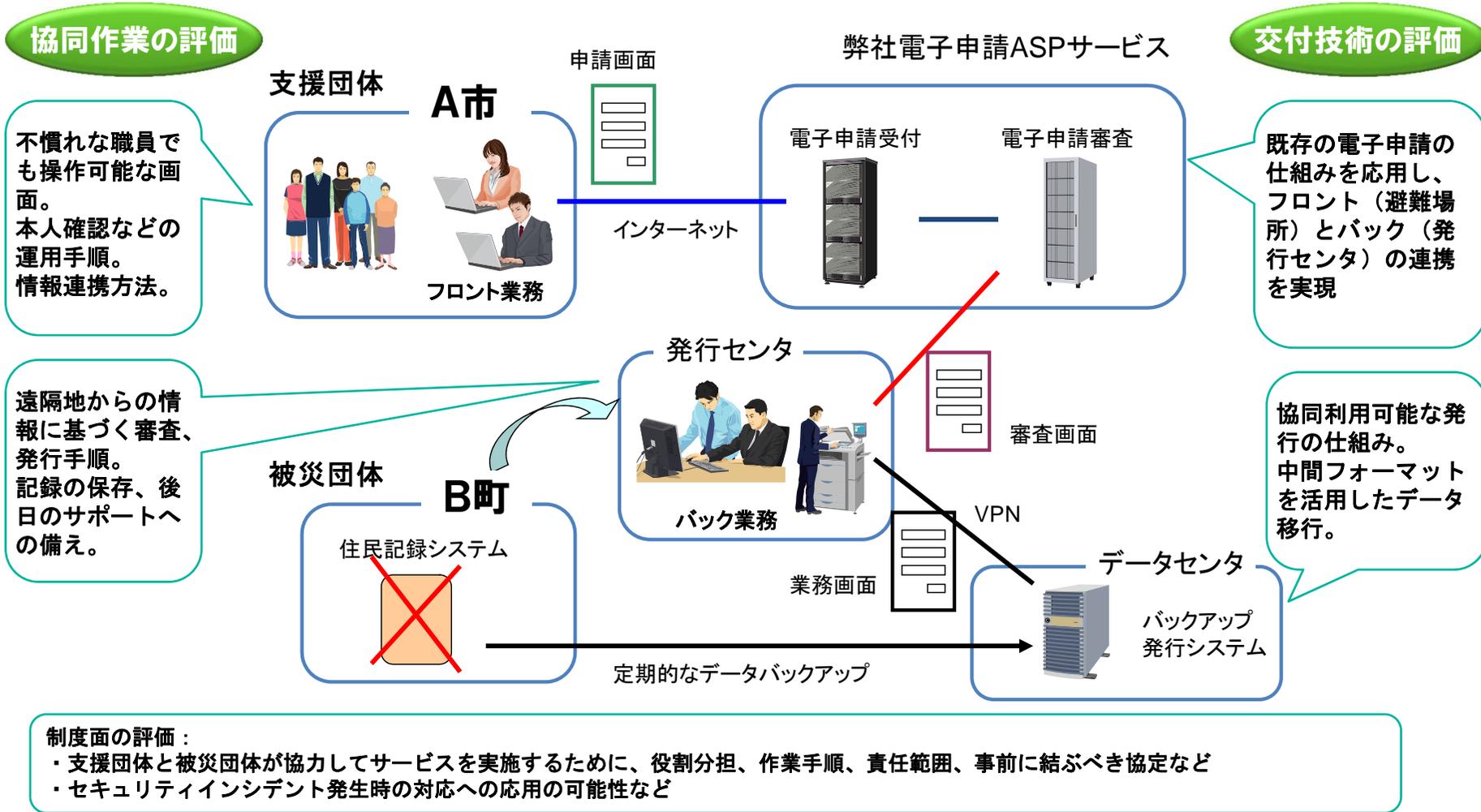
※実証パターンはA市支援団体役、B町被災団体役他数パターンを実施予定です。

A市	人口40万人規模
B町	人口5万人規模
C町	人口1万人規模

- ◆本人確認、証明発行のフロント部分を他団体の支援で実施、審査などのバック部分を被災団体が実施、**それを支援するICTの検討**
- ◆事前協定などの**制度面の検討**

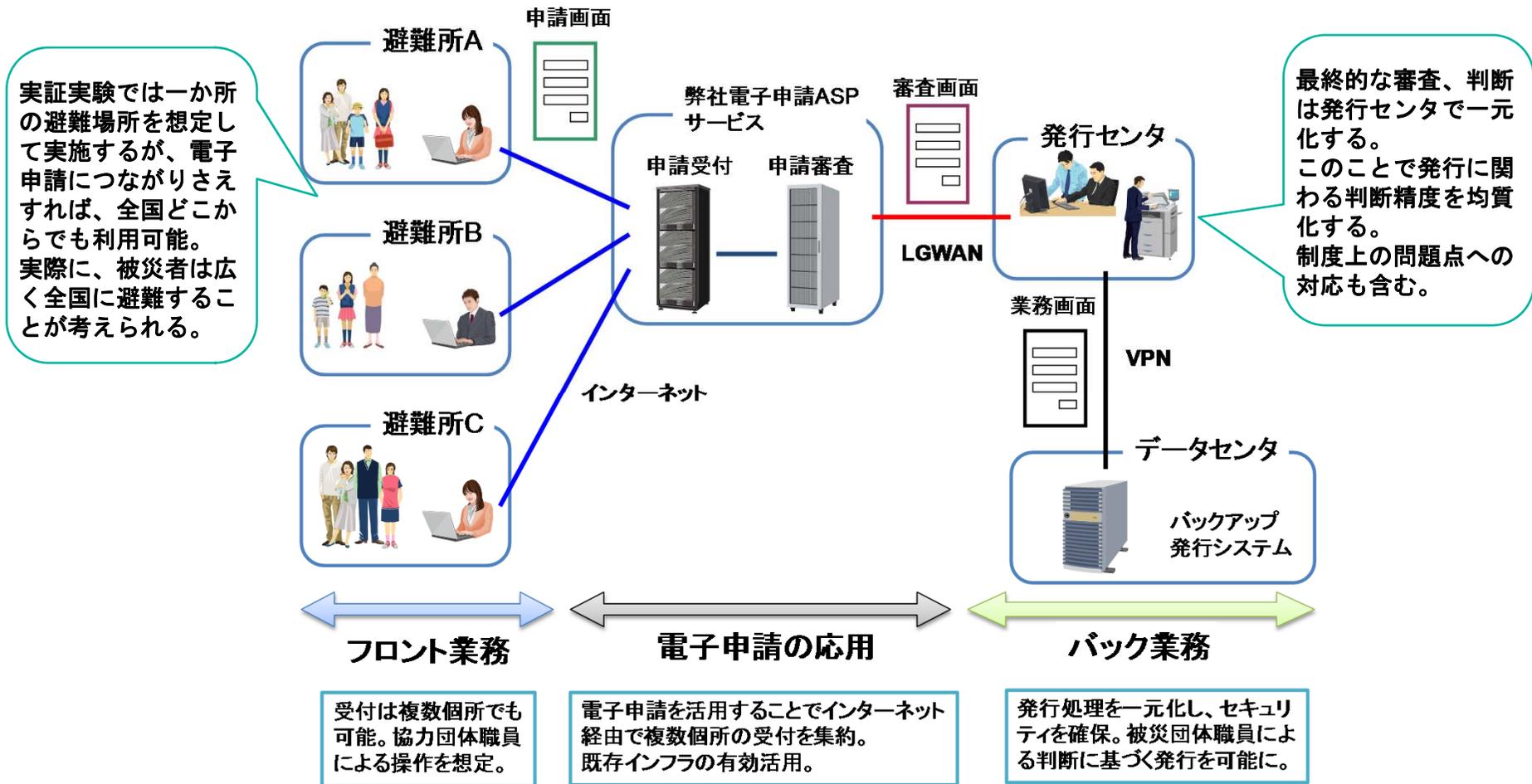
3 実証実験① 複数団体による証明書の発行 (2/3)

電子申請の仕組みを応用したフロント、バックの業務分担



3 実証実験① 複数団体による証明書の発行 (3/3)

フロントの拡大にも柔軟に対応できる仕組み



4 実証実験② 住民へのシームレスな情報提供 (1/2)

被災時の混乱状態でも住民へ迅速な情報提供を行う手順の検討

手順の評価



情報リソースの整理、手順、権限のあり方。

- ・情報をどこから収集するのか
- ・どの様に整理するのか
- ・発信の許可、判断はどの様に行うのか

検討内容の例)

- ・計画停電情報、公共交通機関情報など、発信源が自治体でない情報の扱いはどうするか
- ・それらの正確な情報を電力会社や鉄道会社からどう入手するか
- ・収集した情報をどう分かりやすくまとめるか(標準化できるのか)
- ・収集した情報の発信を情報の重要性に応じて承認権限を分けるか

4 実証実験② 住民へのシームレスな情報提供 (2/2)

検討した手順に基づき、被災シナリオに沿って情報発信訓練を実施

技術の評価

手早く情報を整理し、発信する仕組み。
公開の許可などコントロールの仕組み。
誰でもアクセスしやすく、分かりやすい発信方法。

※ 訓練に利用するツールはクラウドサービスを想定
(被災直後の紙ベース等での情報発信は机上検討)

被災団体職員



例)

被災シナリオ
○月○日○時○分 避難所開設
○月○日○時○分 ボランティア募集開始
⋮



情報発信内容
避難所の場所通知
ボランティアの募集情報
⋮

5 概算スケジュール

作業	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
被災シナリオ策定		■	■						
システム・データの準備		■	■	■					
事前運用の整理(全体手順整理、役割分担定義、必要権限整理)					■	■	■	■	
実証実験シナリオの作成(状況設定、要員配置検討、スケジュールなど)						■	■		
操作、運用手順の整備(本人確認手順、証明書発行手順、情報収集手順、コンテンツ作成手順、承認・公開手順など)						■	■		
実証実験							■	■	
評価								■	■